

平成 27 年度事業報告

1 公益財団法人熊本県立劇場の概況

(1) 設立趣意書

熊本県が建設する熊本県立劇場は、高まり行く県民の文化的欲求に対応するとともに、地域文化開発の拠点となって、活力ある郷土の実現をめざすこととなるのであるが、その管理運営が極めて重要な課題となる。

現下の厳しい社会情勢にかんがみ、県立劇場の管理運営にあたっては、行政負担を抑制すると同時に行政サービスを低下させることなく、効率的かつ適正な執行体制を確保する必要がある。

このことから、県民の福祉及び文化の向上を図るための諸事業を実施し、県立劇場施設の管理委託を受けて、県民生活向上のためのサービスを提供する財団法人を設立のうえ、県立劇場建設の所期の目的を達成するため、民間のエネルギー及び感覚をもって、より効果的運営を図ろうとするものである。

(財団法人熊本県立劇場設立趣意書より)

(2) 法人の目的及び事業

① 目的（定款第 3 条）

この法人は、活力ある郷土の実現をめざし、音楽、演劇、舞踊等の舞台芸術活動を中心とした芸術文化及び地域文化の振興のための事業並びに優れた舞台芸術を広く提供する事業を行い、県民の福祉及び文化の向上に寄与することを目的とする。

② 事業（定款第 4 条）

- ・ 舞台芸術に関する公演を自主制作、又は、主催し、広く提供する事業
- ・ 個人及び団体への助言並びに人材の育成に関する事業
- ・ 団体への助成に関する事業
- ・ 調査、研究、情報収集に関する事業
- ・ 普及・啓発のための広報に関する事業
- ・ 公立文化施設の管理及び貸与に関する事業
- ・ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(3) 沿革

| | | |
|---------|----------|--|
| 昭和 57 年 | 6 月 11 日 | 財団法人熊本県立劇場の設立（民法第 34 条法人） |
| 昭和 57 年 | 12 月 4 日 | 熊本県立劇場落成 |
| 昭和 59 年 | 3 月 5 日 | 財団法人熊本県立劇場文化事業委員会の発足 |
| 昭和 63 年 | 7 月 1 日 | 鈴木健二館長就任 |
| 昭和 63 年 | 8 月 20 日 | 文化振興基金の開設 |
| 平成 元年 | 3 月 30 日 | 施設整備基金の開設 |
| 平成 6 年 | 3 月 31 日 | 自主文化事業調整基金の開設 |
| 平成 10 年 | 7 月 1 日 | 施設使用料金の改定、施設使用許可取扱要領を整備 |
| 平成 11 年 | 3 月 1 日 | 財団法人熊本県立劇場評議員会の発足（文化事業委員会の廃止） |
| 平成 11 年 | 4 月 1 日 | 川本雄三館長就任 |
| 平成 13 年 | 3 月 31 日 | 旧文化振興基金の運用終了 |
| 平成 14 年 | 4 月 1 日 | 自主文化事業調整基金を一新し文化振興基金に改め運用開始 |
| 平成 17 年 | 7 月 1 日 | 熊本県立劇場条例及び条例施行規則改正の公布 |
| 平成 18 年 | 4 月 1 日 | 第 1 期指定管理者運営開始（改正条例の施行） 文化振興基金及び施設整備基金を廃止 |
| 平成 18 年 | 6 月 1 日 | 小堀富夫理事長就任 |
| 平成 18 年 | 6 月 23 日 | 財団法人熊本県立劇場自主文化事業委員会の発足 |
| 平成 18 年 | 7 月 1 日 | 葉山完治館長就任 |
| 平成 21 年 | 3 月 31 日 | 第 1 期指定管理者業務終了 |
| 平成 21 年 | 4 月 1 日 | 第 2 期指定管理者運営開始 |
| 平成 24 年 | 3 月 31 日 | 第 2 期指定管理者業務終了 |
| 平成 24 年 | 4 月 1 日 | 公益財団法人へ移行登記、第 3 期指定管理者運営開始 |
| 平成 26 年 | 4 月 1 日 | 熊本県立劇場条例一部改正（改正条例の施行） 熊本県立劇場運営方針の施行 |
| 平成 27 年 | 4 月 1 日 | 松本辰明理事長就任 |
| 平成 27 年 | 6 月 19 日 | 世良喜久子理事長就任 |
| 平成 28 年 | 1 月 1 日 | 姜尚中理事長兼館長就任 |

(4) 施設の概要

| 施設 | 客席数 | 舞台 | 主な設備 |
|--------------|--------------------------|------------------------|-------------------------------------|
| コンサートホール | 1,810 席 (うち車椅子席 8 席) | 間口 24.0 ㍓ 奥行 14.0 ㍓ | オーケストラ雑壇迫り 3 段 ピアノ 4 台、チェンバロ 1 台 |
| 演劇ホール | 1,172 席 (うち車椅子席 11 席) | 間口 18.0 ㍓ 奥行 20.5 ㍓ | 大迫り、本迫り、オーケストラピット、 仮設本花道、ピアノ 1 台 |
| 大会議室 | 380 人 | 間口 7.2 ㍓ 奥行 3.6 ㍓ | スクリーン、机 54 台、 椅子 382 脚、ピアノ 1 台 |
| 和室 | — | — | 畳 18 畳、板間 18 畳、 所作台 12 枚 他 |
| 音楽リハーサル室 | — | — | 308 ㎡、ピアノ 2 台 他 |
| 演劇リハーサル室 | — | — | 253 ㎡、ピアノ 1 台 所作台 12 枚 他 |
| 練習室（第 1～第 3） | — | — | 215 ㎡、162 ㎡、156 ㎡ 各室にピアノ 他 |

2 事業の実施状況

平成 26 年度に行われたトイレの改修工事では、コンサートホール及び演劇ホールの女性トイレが連結して使用できるようになる等の工夫がなされており、来場者からも好評を得ました。また、劇場周辺ではマンションの開発が続き、さらなる周辺人口の増加により賑わいが期待されます。

平成 27 年度も「熊本県立劇場運営方針」に則り、県内文化ホールの中核として指導的な役割を果たしています。国内複数の公共ホールと連携してオペラ公演や海外の合唱団の招聘に取り組んだほか、山田和樹氏を芸術監督に迎えた熊本県芸術文化祭オープニングステージが高い評価を得ました。さらに将来の舞台技術者育成のために熊本演劇人協議会や舞台技術関係者と連携して、舞台技術の基礎講座を開催しました。

そのほか日常の運営については、下記の事項に留意して管理運営業務を行いました。

- ① 公平な取り扱い
- ② 安全・清潔・快適な施設及び設備の提供
- ③ 利用者増加、利便性向上
- ④ 文化・教育・福祉の向上
- ⑤ 舞台芸術振興の中心的役割
- ⑥ 県民等とのパートナーシップとその意見の反映
- ⑦ 経費の節減
- ⑧ 公の施設としての機能・役割

(1) 管理運営事業 (公2・収1)

① 概況

指定管理者第3期4年目に当る平成27年度も、施設・設備の安全・快適・清潔な利用の提供ができるよう、利用者のサービスの充実とコスト管理の徹底に取り組み、管理運営業務を行いました。

・施設設備の維持管理

平成27年度は、熊本県により新たな保全計画が策定されました。この保全計画は県立劇場の長寿命化には欠かせないものですが、策定に先立ち各種調査が行われ、県立劇場が県民の文化・芸術の活動拠点として今後長きにわたり存続できるよう、計画に盛り込むべき事項の提言がなされました。

昨年8月には台風15号により樹木の倒木やフェンスの一部倒壊、自転車小屋の屋根の破損等の被害が発生しましたが、幸い人的被害はなく、県の予算措置により修繕が行われました。

その他の修繕工事は、県予算にて演劇ホール緞帳直流電動機制御装置の更新、中央監視装置及びN-DGP・温湿度検出器等の更新、防煙垂れ壁工事が行われました。

・満車時の混雑解消

平成27年度は、有料駐車場満車時の職員による誘導整理は102日間のべ115回(平成26年度は、77日間のべ95回)となりました。

また、出庫時の混雑解消のための裏門開放または正門付近の出庫整理も同様に41回(裏門22回、正門19回)実施して、1回平均5分程度の出庫時間短縮の効果が出ています。

(参考)平成26年度…22回(裏門12回、正門10回)

※平成26年12月～平成27年3月は改修工事に伴う貸出停止のため実施なし

なお、ゆめタウン大江とは満車に伴う周辺道路混雑について協議を進めており、混雑が予想される場合は、ホールの終演時間に合わせてゆめタウン大江の大江小学校側出口にて出庫整理を行うなど協力体制を構築しています(平成27年度実績8回)。

② 施設の利用状況

前年度に引き続き、利用しやすい貸出し環境やサービスの向上に努めました。

平成 27 年度の利用率は、コンサートホールが 73.3%、演劇ホールが 78.9%となり、演劇ホールの利用率が目標の 81%に 2.1 ポイント、利用日数で 6 日達しない結果となりました。

利用形態については、コンサートホールは大きな変化は見られませんが、演劇ホールは演劇の利用が大きく減少しました。

また、上半期は公共機関及び学校・民間等による年度初めの式典等の利用が減少し、下半期は、前年度のトイレ等改修工事による貸出停止（平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月）の影響で平日の利用が減少しています。全体として、本番日以外の仕込み・リハーサル利用が減少しているほか、客席数が少なく使用料も安い熊本市内の小規模ホールの需要が高まっており、これらが利用率減少の要因であると分析しています。

年間入場者数は、前年度比約 13 万 2 千人増の 49 万人となりました。このうち、コンサートホールの入場者数は約 6 万 6 千人の増、演劇ホールの入場者数は約 2 万 8 千人の増となっていますが、目標入場者数である 52 万人に対しては 3 万人あまり不足することとなりました。これは、前述の工事による貸出停止によるもののほか、各催事の入場者数が減少傾向にあることが反映していると分析しているところです。

（施設利用率・入場者数の目標と実績）

| 項目 | 目標 | 実績 | 差異 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|
| コンサートホール利用率 | 73.0% | 73.3% | 0.3 ポイント |
| 演劇ホール利用率 | 81.0% | 78.9% | ▲2.1 ポイント |
| 入場者数 | 520,000 人 | 490,625 人 | ▲29,375 人 |

【コンサートホール】

利用可能日数 296 日に対して、利用実績 217 日、入場者数 21 万 8 千人あまり、利用率 73.3%で、前年度と比較して利用日数は 52 日の増ですが、利用率は 3.4 ポイントの減となっています。

利用形態別では、音楽会・歌謡ショー148 日（対前年度同期比 25 日増）、大会・集会・式典が 14 日（同 2 日減）、研修・講演・発表会が 39 日（同 17 日増）となっています。

音楽会や研修・講演・発表会の増の要因は、九州吹奏楽コンクールや芸文祭オープニングステージや、西日本ハワイアン協会フラフェスティバル等による複数日利用の増加によるものです。

区分帯別利用では、午前 185 日（対前年度同月比 54 日増）、午後 191 日（同 47 日増）、夜間 118 日（同 22 日増）となり、利用日数の増加に伴い各区分帯の利用も増加となっていますが、使用料が他の区分帯より高額である理由から、例年利用が低迷している夜間区分帯の利用は、午前・午後区分帯と比較すると、低い傾向に変わりありません。

【演劇ホール】

利用可能日数 285 日に対して利用実績 225 日、入場者数 14 万 5 千人あまり、利用率 78.9% で、前年度と比較して利用日数は 45 日の増ですが、利用率は 3.7 ポイントの減となっています。

利用形態別には、演劇 27 日（対前年度比 11 日減）、邦楽・邦舞が 5 日（同 3 日減）、洋舞が 32 日（同 5 日増）、古典芸能が 11 日（同 2 日増）、大会・集会・式典が 15（同 3 日増）、研修・講演・発表会が 64 日（同 21 日増）、歌謡・音楽会 59 日（同 18 日増）、映写会その他は合わせて 12 日（10 日増）となっています。

演劇の減の要因は、定例開催の熊本市民劇場例会の開催日数が減少したことに加え、文化事業をはじめ民間プロモーターによる演劇公演があまり開催されなかったことによるものです。

区分帯別では、午前 201 日（対前年度同月比 40 日増）、午後 196 日（同 28 日増）、夜間 130 日（同 25 日増）となり、利用日数の増加に伴い各区分帯の利用も増加となっていますが、コンサートホール同様に、例年利用が低迷している夜間区分帯の利用は、午前・午後区分帯と比較すると、低い傾向に変わりはないようです。

【大会議室】

利用可能日数 312 日に対して利用実績 226 日、入場者数 5 万人あまり、利用率 72.4% で、前年度と比較して利用日数は 63 日の増ですが、利用率は 3.9 ポイントの微増となっています。

利用形態別には、大会、集会、式典が 8 日（対前年度同期比 2 日減）、研修・講演・発表会が 159 日（同 49 日増）、展示会が 4 日（同 4 日増）、歌謡・音楽会が 40 日（同 8 日増）、その他が 15 日（同 4 日増）となっています。

研修・講演・発表会の増加が、利用日数の増加に繋がっており、その他の 15 日は、全国吟道大会や熊本バレエ劇場など、ホール併用の舞台芸術公演の利用増によるものです。

区分帯別では、午前 111 日（対前年度同月比 31 日増）、午後 200 日（同 55 日増）、夜間 77 日（同 24 日増）となり、夜間利用の低減は、全体として午後本番の催し物が多くなっていることが要因の一つと分析されます。

【和室】

利用可能日数 334 日に対して利用実績 125 日、利用率 37.4% で、前年同期と比較して利用日数は 25 日増、利用率は 2.0 ポイントの減となり、入場者数は微増の 2,289 人となりました。

利用形態的には、ホール併用による託児室や、大会議室の控室的な利用が多く、和室本来の利用としては低い傾向に変わりないようですが、着付け教室や邦舞・邦楽等のおさらい会の利用も増えてきています。

区分帯別の、夜間利用区分帯の 36 日増は、着付け教室等の利用増によるものです。

【音楽リハーサル室】

利用可能日数 332 日に対して利用実績 242 日、利用率 72.9%で、前年同期と比較して利用日数は 45 日増、利用率は 2.9 ポイントの減となり、入場者数は 8,720 人増の 21,530 人となりました。

利用内容としてはコンサートホールの利用に伴うリハーサルや控室としての利用のほか、定期的な音楽利用団体の練習利用となっています。

区分帯別では、利用増に伴いそれぞれの区分帯で増加となっています。

【演劇リハーサル室】

利用可能日数 332 日に対して利用実績 184 日、利用率 55.4%で、前年同期と比較して利用日数は±0 日、利用率は 14.3 ポイントの減となり、入場者数は 3,075 人減の 11,776 人となりました。

利用内容としては、演劇ホールの利用に伴うリハーサルや楽屋としての利用のほか、定期的な舞台芸術団体の練習利用となっています。

区分帯別では、午前と夜間の区分帯において減少していますが、要因としては、毎週利用のフィットネス団体等の利用が、安価な他の練習室に移行したことがその要因の一つとなっています。

【第 1 練習室】

利用可能日 336 日に対して利用実績 179 日、利用率 53.3%で、前年同期と比較して利用日数は 40 日増、利用率は 0.2 ポイントの増となり、入場者数は 7,156 人増の 13,373 人となりました。

区分帯別では、利用増に伴いそれぞれの区分帯で増加となっていますが、午前区分帯が他の区分帯と比較して増えていないのは、地元大学吹奏楽の練習利用が減少したこと等がその要因の一つとなっています。

【第 2 練習室】

利用可能日数 334 日に対して利用実績 245 日、利用率 73.4%で、前年同期と比較して利用日数は 57 日増、利用率は 1.1 ポイントの増となり、入場者数は 5,488 人増の 11,151 人となりました。

区分帯別では、利用増に伴いそれぞれの区分帯で増加となっていますが、午後区分帯が他の区分帯と比較して増えていないのは、毎週利用の体操教室の利用頻度が少なくなったことがその要因の一つとなっています。

【第 3 練習室】

利用可能日数 339 日に対して利用実績 283 日、利用率 83.5%で、前年同期と比較して利用日数は 58 日増、利用率は 2.7 ポイントの減となり、入場者数は 5,699 人増の 13,721 人となりました。

区分帯別では、利用増に伴いそれぞれの区分帯で増加となっています。

③ 使用料収納の実績

平成 27 年度の施設使用料（設備使用料と駐車場使用料）収入は 208,528,760 円であり、県予算比では 1,710 万円ほど下回る結果となりました。

これは利用率は横ばいにあるにもかかわらず、利用日数の減（平成 25 年度比 27 日間の減）に伴う減額と、公演時間が使用料の高い夜間から昼間にシフトしていることが要因と考えられます。

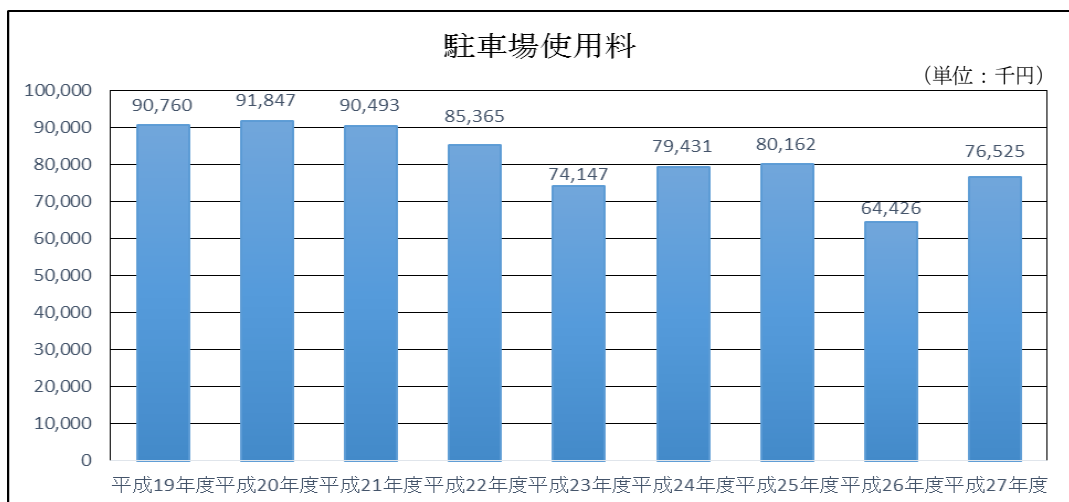
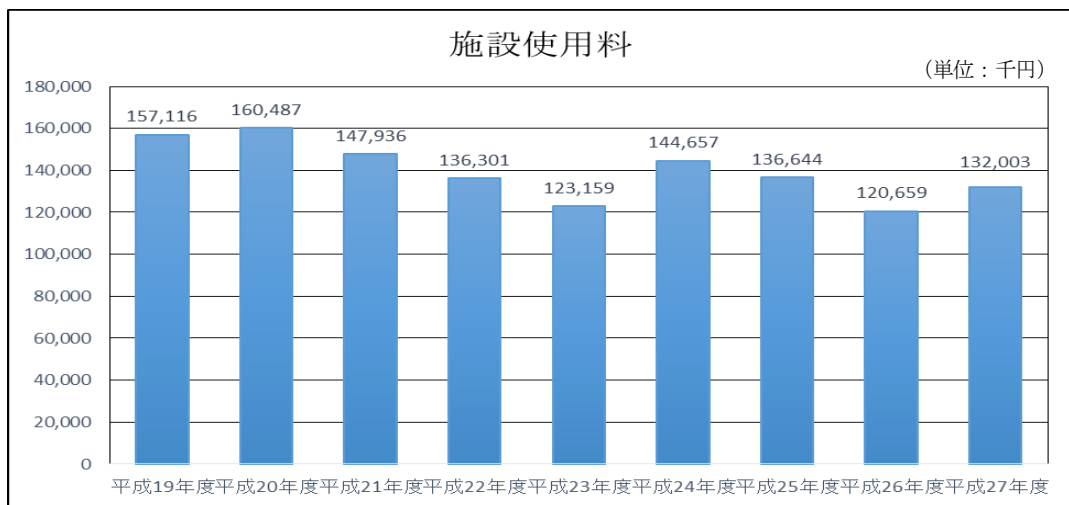
（内訳）

- ・ 設備使用料収入 132,003,560円
 - * 設備使用料収入額 132,067,820円－使用者への返還額64,260円＝132,003,560円
- ・ 駐車場使用料収入 76,525,200円

（使用料収納の状況）

| 項目 | | 県予算 | 実績 | 差異 |
|------------|--------|---------------|---------------|---------------|
| 使用料 収納額 | 設備使用料 | 146,133,000 円 | 132,003,560 円 | ▲14,129,440 円 |
| | 駐車場使用料 | 79,499,000 円 | 76,525,200 円 | ▲2,973,800 円 |

（参考）施設使用料収納額の年度別比較



3 文化事業

(1) 文化事業実施概要

文化事業の入場者・参加者は、目標数値の 34,000 人に対し 34,355 人と目標を達成しました。入場者アンケートの公演内容については、概ね 97%が大変満足または満足と回答し、高い満足度を示しています。

平成 27 年度は、「辻井伸行 with 井上道義&オーケストラ・アンサンブル金沢」、歌劇「フィガロの結婚」、「親指こぞう」の 3 公演でチケットが完売。「五嶋龍ヴァイオリン・リサイタル」、「第 57 回熊本県芸術文化祭オープニングステージ」はいずれも満席に近い来客数となり盛況裡に終了しました。



辻井伸行 with 井上道義&オーケストラ・アンサンブル金沢



親指こぞう

熊本県芸術文化祭オープニングステージは、芸術監督・指揮者に山田和樹を迎え、県内高校生選抜メンバーで構成された芸文祭スペシャルドリームバンドが出演しました。

歌劇「フィガロの結婚」は、指揮・総監督に井上道義、演出に野田秀樹を迎え、舞台を黒船来航時代の長崎に置き換え、イタリア語と日本語を交えて上演しました。



第 57 回熊本県芸術文化祭オープニングステージ



歌劇「フィガロの結婚」

① 芸術文化の創造拠点として取り組む事業（公1）

1) 創り育む

熊本県立劇場が自ら質の高い舞台を制作するとともに、本県文化創造の活動拠点として県民や文化団体の活動を育成・支援するための事業を実施しました。

第57回熊本県芸術文化祭オープニングステージ ヤマカズが贈る新・吹奏楽

メインプログラムの交響的カンタータ「展覧会の絵」では、カルテット・スピリタス（サククス四重奏）、県内ピアニスト4人による2台のピアノ、100人を超える合唱団が加わり、大迫力の演奏を披露。熊本デザイン専門学校生が制作した劇場初のプロジェクト・マッピングと演奏が見事に融合しました。

また関連企画として、山田和樹氏による指揮講習会「ヤマカズ流・吹奏楽の指揮法」やプロジェクト・マッピングのワークショップを実施したほか、サククス四重奏のカルテット・スピリタスを阿蘇市内の3小学校へ派遣し、アウトリーチ（出前授業）を行いました。

助成：文化庁

モーツァルト 歌劇「フィガロの結婚」

全国9つの公共ホールと6つのオーケストラが参加し、10ヶ所14公演行う共同制作プロジェクトとして実施。野田秀樹ならではの演出が高い評価を得、オペラファンだけでなく演劇ファンも十分に楽しめる内容で、新たな客層を取り込むことができました。

助成：文化庁

アートによる地域支援事業

演劇、ダンス、音楽を通して子どもたちや障がいのある方たちのコミュニケーション力、表現力を高めるためのワークショップの活用について、教育機関（熊本保健科学大学）と連携して取り組みました。また、将来医療に従事する学生向けのワークショップや、現場の作業療法士とアーティストとの協働で、ワークショップ活用のための研究会を実施しました。

児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験（芸術家派遣）

文部科学省の委託を受けて、児童生徒のコミュニケーション能力育成を図る事業を、県内の6小中学校・高等学校で実施しました。

委託：文部科学省

アウトリーチコーディネーター養成講座

音楽のアウトリーチコーディネーター養成講座を初級編として実施。受講生は小学校でのアウトリーチを見学したほか、アウトリーチの概要やコーディネーターの役割、必要なスキルについて学びました。

助成：一般財団法人地域創造

夏！子どもわくわくアートフェスティバル 2015

特定非営利活動法人熊本県子ども劇場連絡会との共催で、演劇、音楽、マジックなど「子どものための舞台公演」の上演や邦楽ワークショップを実施。2日間で延べ3,500人を超える方々が夏休みに家族で楽しみました。

今年9回目の実施となった「県劇♪ピアノの日」は、19組の参加者が演奏したほか、平成14年度に寄贈されたベーゼンドルファーをあらためて紹介するため、ミニコンサートを企画しました。

助成：文化庁

「わかったさんのクッキー」関連企画 親子演劇ワークショップ

熊本在住の劇作家岡田利規の台本・演出でKAAT 神奈川芸術劇場で上演される演劇公演「わかったさんのクッキー」のリハーサルを3日間実施。その成果を公開リハーサルとして、幼児から小学校低学年の児童とその保護者に披露しました。

ケンゲキ・アット・ライブ

地域で活動する演奏家に発表の場を提供するため、毎月1回実施しました。

文化活動支援事業

県内で活動する文化団体等（詳細は41ページ参照）に、公演の広報や県立劇場の会場費助成により活動を支援しました。

民間共催事業

県内文化団体との共催事業として、「熊本県新人演奏会」、「ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 熊本地区大会」、「熊本県民第九の会第32回記念演奏会ベートーヴェン『第九』」の3事業を実施しました。

2) 広げる

本県における中核的な拠点ホールとして、県内各地域の公立ホールを支援するための事業を実施しました。

ネットワーク事業

市町村ホールと連携して取り組むネットワーク事業は、「トリニティ（2公演）」、「The ちゃぶ台」、「清和文楽人形芝居」、「津軽三味線あべや」、「そがみまこ&DOYO組（2公演）」、「三遊亭好楽」を8市町で実施しました。

助成：文化庁

公立文化ホール支援事業

県内公共ホールに対する指導・助言を行う事業として「熊公文協自主文化事業研修会支援事業」では、北九州芸術劇場より講師を招き、同劇場における「バックステージツアー」と「子どものための劇場体験」の事例をもとに研修を行い、県内芸術文化情報を共有しました。

被災地支援交流事業

東日本大震災後、熊本県と県内自治体が復興支援活動を行っている宮城県東松島市の文化施設や集会所に県出身の落語家三遊亭好吉を派遣して、こころの復興に寄与する事業を行いました。

助成：文化庁

熊本の文化魅力発信事業

追加事業として、「清和文楽人形芝居」を新宿歴史博物館で7月に実施しました。これは、「熊本と新宿をつなぐ作家漱石・八雲」のオープニングイベントとして取り組んだもので、来場者から高い評価を得られました。また、2月には山鹿市の八千代座でも上演、県外からの観光客も多く、たくさんの方で賑わいました。

舞台技術の基礎講座

舞台公演を支える技術者の減少が課題となっているなか、将来の技術者養成につなげようと2日間にわたる講座を実施しました。

姜尚中館長就任記念講演会

追加事業として、平成28年1月、新館長に就任した姜尚中氏の講演会と、熊本市現代美術館長の桜井武氏と映画監督の行定勲氏をゲストに迎えた座談会を行いました。

3) 伝える

日本の伝統文化や県内に伝わる民俗芸能を継承し発展させる事業を実施しました。

邦楽ワークショップ

「日本の伝統を伝える」をコンセプトに、普段触れる機会の少ない笙や箏（ひちりき）、篠笛、能管、鼓の邦楽器のワークショップとミニライブを実施しました。

助成：文化庁

夏休み能楽体験教室

夏休みの親子向け講座として、喜多流能楽師の狩野琇鵬氏、狩野了一氏らを講師に迎えて能楽体験教室を実施しました。

助成：文化庁

能楽講座

能楽師塩津圭介氏と東京大学情報理工学系研究科中村仁彦教授を講師に迎え、「能楽とロボット」という新しい切り口で古典芸能を紹介。ふだん能楽に接する機会の少ない方たちにも興味を持ってもらうことができました。

助成：文化庁

② 芸術文化の普及拠点として取り組む事業（公1）

1) 楽しむ

専用ホールの特性を活かした質の高い舞台芸術公演で、民間では実現が困難な事業の実施や民間と連携した事業に取り組みました。

五嶋龍 ヴァイオリン・リサイタル 2015

3年ぶりの日本ツアーで、熊本初公演。熊本朝日放送との共催で取り組み、ヴァイオリン・ソナタの最高傑作とも言われるベートーヴェン作曲「クロイツェル」と、フランク作曲「ヴァイオリン・ソナタ」ほかを演奏しました。

シュトゥットガルト室内合唱団

熊本、富山、神奈川3県の公共ホールの連携事業として実施。合唱界の巨匠フリーダー・ベルニウスとプロの合唱団27人が、ミサ曲からメンデルスゾーンの歌曲まで全曲ア・カペラで披露しました。

助成：一般財団法人地域創造

辻井伸行 with 井上道義&オーケストラ・アンサンブル金沢

人気のピアニスト辻井伸行と、井上道義が指揮するオーケストラ・アンサンブル金沢の公演は、オール・モーツァルトプログラムで実施。井上道義のダイナミックな指揮で、小編成ながら迫力のある演奏を聴かせたオーケストラ・アンサンブル金沢と、大人気のピアニスト辻井伸行の演奏で、満員の聴衆を魅了しました。

助成：文化庁

親指こぞう—ブケッティ—

演劇ホールの舞台上に大きな木の箱でつくられた特設劇場を設け、50台のベッドを並べて観客は横になってお話しを聴く演劇公演。多くの家族連れが鑑賞し、今までにない新鮮な体験をしたと好評でした。

助成：文化庁

クラシックの小箱 Vol. 10 第10回記念コンサート

第10回記念の今回は、過去の出演者の中から5組の県出身者が、春をテーマとしたプログラムを披露しました。

助成：文化庁

民間共催事業

県民の舞台芸術鑑賞機会を広げるため、民間事業者との共催事業により、劇団仲間「空の村号」、「第十九回夏季狂言の会」の2公演を実施しました。

2) 出会う

県立劇場以外のさまざまな場所で、多くの県民が文化芸術と出会うための事業を実施しました。

演奏家派遣アウトリーチ事業

平成 26・27 年度の登録アーティスト（ヴァイオリン、サクソ、ピアノ）によるアウトリーチと演奏会を、御船町、津奈木町、菊陽町、益城町の 4 町で実施しました。

助成：文化庁

芸術家派遣コーディネート事業

熊大附属中学校の「附中文化の日」の学校鑑賞会にサクソ四重奏のカルテット・スピリタスを派遣しました。

ぴっころシート事業

企業の協賛を得て児童養護施設の子どもたち等を公演に招待する「ぴっころシート事業」は、ふだん舞台芸術にふれる機会の少ない子どもたちを対象に、7 公演に 117 名を招待。また、児童養護施設藤崎台童園で劇場登録アーティストによるミニコンサートを実施しました。

(参考資料) 文化事業実績

①創造拠点事業

1)《創り育む》

| 期日 会場 | 事業名 | 概要 | 入場料 (円) | 入場者 (人) | 参加者 (人) |
|--------------------------------------|---|--|--------------------------|------------|------------|
| 第57回熊本県芸術文化祭オープニングステージ ヤマカズが贈る 新・合唱 | | | | | |
| 8/30(日) コンサート ホール | ヤマカズが贈る 新・吹奏楽 | 芸術監督・指揮者に山田和樹を迎え、県内高校生選抜メンバーで構成した芸文祭スペシャルドリームバンドが出演。メインプログラムの「交響的カンタータ『展覧会の絵』」では、ドリームバンドにサクソ四重奏のカルテット・スピリタス、ピアニスト4人によるピアノ2台、100人を超える合唱団が加わり、大迫力の演奏を披露。熊本デザイン専門学校生が制作した劇場初のプロジェクト・マッピングと演奏が見事に融合。壮大なフィナーレに、会場から感動の声が上がった。 | [指定] S3,000 A2,000 | 1,421 | — |
| 4/18(土) ～8/22(土) | 合唱練習 (全12回) | 「交響的カンタータ『展覧会の絵』」の合唱練習を県合唱連盟主体となって行った。 | — | — | 905 |
| 4/19(日) ～8/16(日) | 吹奏楽練習 (全4回) | 芸文祭ドリームバンドによる吹奏楽の練習。「交響的カンタータ『展覧会の絵』」、「ラプソディー・イン・ブルー」、「詩的間奏曲」を練習した。 | — | — | 283 |
| 6/1(月) 7/17(金) | 関連企画 舞台ワーク ショップ&アナ リーゼ 学生によるプレ ゼンテーション | プロジェクト・マッピングを制作する熊本デザイン専門学校メディア映像デザイン科の学生を対象に、ワークショップを実施した。 | — | — | 35 |
| 8/27(木) 8/28(金) 音楽リハーサ ル室 | 関連企画 ヤマカズ流 吹奏 楽の指揮法 (基 礎編・応用編) | 芸文祭オープニングステージの芸術監督・山田和樹による指揮講習会を2日に渡って実施した。 | — | — | 62 |
| 10/20(火) 10/21(水) | 関連企画 阿蘇市アウト リーチ | 第57回県芸術文化祭オープニングステージ出演者のカルテット・スピリタスによるアウトリーチを阿蘇市内3小学校全校児童を対象に行った。 | — | — | 161 |
| モーツァルト 歌劇「フィガロの結婚」 | | | | | |
| 11/14(土) 演劇ホール | 歌劇「フィガロ の結婚」 | 指揮・総監督・井上道義、演出・野田秀樹、演奏は九州交響楽団。舞台を黒船来航時代の長崎に置き換え、イタリア語と日本語を交えて上演した。 | [指定] S8,000 A6,000 | 967 | — |
| 6/22(月) ～10/23(金) 音楽リハーサ ル室 | 熊本フィガロ・ クワイヤー練習 (全4回) | 本公演の合唱指導者・辻博之を講師に迎え、合唱の練習を実施。熊本フィガロ・クワイヤーが参加した。 | — | — | 47 |

| 期日 会場 | 事業名 | 概要 | 入場料 (円) | 入場者 (人) | 参加者 (人) |
|---|---|---|------------|------------|------------|
| アートによる地域支援事業 | | | | | |
| 7/22(水) ～H28. 3/17(木) | アート×リハビリテーション わくたまチャレンジ (全7回) | 超高齢化社会に向けてアートをどのように活用できるのか、医療・福祉系の熊本保健科学大学リハビリテーション学科生活機能療法学専攻の先生方と協働して高齢者施設で働く方々（作業療法士、介護士、医師など）と一緒に考える研修を行った。 | — | — | 124 |
| 9/1(火) 9/2(水) | 熊本保健科学大学 学生対象の講座 (リハビリテーション学科生活機能療法学専攻) | アートを活用して、地域に役立つためのプログラム。将来、作業療法士になる学生に認知症のお年寄りや障がいのある人に対するコミュニケーションを考えてもらうワークショップを実施した。 | — | — | 79 |
| H28. 2/22(月) 3/18(金) | 認知症対応型通所介護施設での ワークショップ | 認知症対応型通所介護施設で認知症の方を対象に、演劇ワークショップを実施した。 | — | — | 32 |
| 文部科学省「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験 (芸術家派遣)＜コーディネーター実施方式＞」受託事業 | | | | | |
| 9/7(月) ～12/8(火) | 天草市立栖本小学校ワーク ショップ (全5回) | 「一人ひとりが表現を通して身の回りの『ひと・もの・こと』を見つめ直す」ワークショップを6年生を対象に実施した。 | — | — | 60 |
| 9/8(火) ～9/15(火) | 熊本市立河内中学校ワーク ショップ (全3回) | 1年生を対象にワークショップを実施、担任教師「マスタトシオ物語」のCMをつくる活動を行った。 | — | — | 96 |
| 10/1(木) ～10/14(水) | 和泉町立菊水南小学校ワーク ショップ (全3回) | 全校児童51人の小規模校において、低学年と高学年に分かれてワークショップを実施した。 | — | — | 152 |
| 10/8(木) ～10/16(金) | 山鹿市立米田小学校ワーク ショップ (全3回) | 小規模校。5年生と6年生でワークショップを実施。「4校統合に向けて、自分の思いを適切に表現できる子どもを育てたい。」との学校のコンセプトにあうプログラムで構成した。 | — | — | 118 |
| 10/20(火) ～H28. 1/28(木) | 松尾北小学校 ワークショップ (全8回) | 全校児童13人と熊本市内で一番少人数の学校。「一人ひとりが、表現を通して身の回りの『ひと・もの・こと』を見つめ直す」WSを実施した。 | — | — | 104 |
| H28. 1/21(木) ～2/24(水) | 熊本県立ひのくに高等支援学校 ワークショップ (全3回) | 卒業後、自立した社会生活を営むことを意識させた教育を行っている高等支援学校のワークショップを実施した。 | — | — | 99 |

| 期 日 会 場 | 事業名 | 概 要 | 入 場 料 (円) | 入 場 者 (人) | 参 加 者 (人) |
|--|-------------------------------------|--|---|--------------------|--------------------|
| 12/8(火) 12/9(水) H28. 2/16(火) | アウトリーチ コーディネー ター養成講座 (全3回) | 音楽アウトリーチのコーディネーター養成講座初級編として実施。熊本市立城東小学校6年生のアウトリーチを見学したほか、アウトリーチの概要や、コーディネーターの役割や必要なスキルについて学んだ。 | 参加料 1,000 | — | 29 |
| 6/6(土) 6/7(日) 演劇リハーサル室 | 「わかったさんのクッキー」関連企画 親子演劇ワークショップ | 熊本在住の劇作家・岡田利規の台本・演出で神奈川芸術劇場で上演される演劇公演「わかったさんのクッキー」のリハーサルを3日間実施。その成果を公開リハーサルとして、幼児から小学校低学年の児童とその保護者に披露した。 | 無料 | — | 72 |
| 7/20(月・祝) 7/21(火) 演劇リハーサル室ほか | 夏！子どもわくわくアートフェスティバル2015 | 県立劇場と熊本県子ども劇場連絡会が夏休みに連携して共催で取り組んだ2日間のフェスティバル。演劇、音楽、マジックなど11団体によるステージを実施した。 | 子ども 700 大人 2,000 フリーパス 2,700 | 3,474 | — |
| 7/27(月) コンサート ホール | 県劇♪ピアノの日#9 | 20組の募集に対し申し込みは43組。抽選後のキャンセルがあり19組での実施になった。 また、劇場のベーゼンドルファーを紹介する企画として、平成音楽大学の協力によるミニコンサートも実施。「音色の特徴がよくわかった」などの声が寄せられるなど好評だった。 | 参加料 1組 3,000 | 156 | 23 |
| H28. 3/19(土) 3/20(日) 熊本市現代美術館ほか | オハイエくまもと協力事業 | 熊本市中心部の8会場で実施された「第7回オハイエくまもと にとっておきの音楽祭」に協力。熊本市現代美術館ホームギャラリーでの16団体113人が参加した舞台進行全般に関わった。 音響機材や譜面台など、コンサートに必要な機材や備品の貸与、進行表作成ならびに進行管理など、劇場が持つノウハウと技術を生かした協力を行った。 | 無料 | 1,000 | — |
| 毎月1回 光庭横休憩スペース | KENGEKI@Live | 県内在住の音楽家等に発表の場を提供し、アーティストの活動支援を行った。 熊本大学体育会吹奏楽部、邦楽部、弦楽アンサンブル、吹奏楽アンサンブル等が参加した。 | 無料 | 1,515 | — |
| 通年 | 文化活動支援事業 | 県内で活躍する文化団体等に、県立劇場での会場費を助成した。(6事業) 詳細は別表に記載。 | 主催者により異なる | 5,606 | — |

| 期 日 会 場 | 事業名 | 概 要 | 入 場 料 (円) | 入 場 者 (人) | 参 加 者 (人) |
|----------------------|--|--|---|--------------------|--------------------|
| 民間共催事業 | | | | | |
| 8/2(日) 演劇ホール | 「眠れる森の美女」プロローグ 付 全三幕 主催：熊本バレエ劇場、熊本ユース・シンフォニーオーケストラ | 熊本バレエ劇場創立60周年の記念行事として開催。中国・上海市舞蹈学校のダンサーを迎え、演奏は福田隆指揮・熊本ユースオーケストラが担当した。チャイコフスキーの名曲と日中のバレエを志す若者たちによるエネルギッシュかつ華麗な舞踊で観客を魅了した。 | [指定] A8,000 B7,000 学生席 3,500 | 1,761 | — |
| 10/25(日) 音楽リハーサル室 | ショパン国際ピアノコンクール in Asia 主催：ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 組織委員会 | 26年度に引き続き、「ショパン国際ピアノコンクール in ASIA」熊本地区大会を名義共催で実施。 27年度は40人の参加者のうち、18人が平成28年1月に行われた全国大会に出場した。 | [自由] 一般 1,000 学生500 | 100 | 40 |
| 11/1(日) コンサートホール | 第54回熊本県新人演奏会 主催：熊本県文化協会 | 8月に行われたオーディションの中から選ばれた、熊本県出身または在住の演奏家12人（ヴァイオリン、フルート、クラリネット各1人、ピアノ6人、声楽3人）が出演。若さ溢れる演奏を披露した。 | [自由] 一般 1,000 | 682 | — |
| 12/6(日) コンサートホール | ベートーヴェン「第九」 主催：熊本県民第九の会、熊本県文化協会 | 指揮者に若手の小森康弘を迎え、ソリストは地元出身歌手らを起用。年末の風物詩の「第九」を聴かせた。アンコールでは4楽章の「歓喜の歌」を観覧者とともに歌い、演奏会を締めくくった。 | [指定] 4,000 [自由] 3,000 学生 1,500 | 1,182 | — |
| 10/10(土) 10/11(日) | みずあかり協力事業 | 桜町再開発に伴い、NTT西日本前の会場が使用できず、実施を見送った。 | — | — | — |
| 創造拠点事業《創り育む》 計 | | | | 17,864 | 2,521 |

2) 《広げる》

| 期 日 会 場 | 事業名 | 概 要 | 入 場 料 (円) | 入 場 者 (人) | 参 加 者 (人) |
|------------------------------------|---|--|--|--------------------|--------------------|
| ネットワーク事業 | | | | | |
| 5/31(日) 荒尾総合セン ター | トリニティ 荒尾 公演 | フラメンコと箏とピアノのコラボレー ションによる公演を実施。フラメンコに 合わせて手拍子が起こるなど会場のお客 さまの反応も上々だった。 | 一般 1,800 高校生以下 500 (当日 200高) | 310 | — |
| 7/18(土) ながす未来館 | Theちゃぶ台 や まとなでしこ ～長洲町編～ | 木内里美作・演出・主演、「煙草屋の婆 ちゃんシリーズ」を上演。木内は早い段 階から長洲町に出向き、ハーモニーなが す、金魚のふれ売り師、劇団かたつむ り、おやじの会など地元と交流を図り、 それぞれの特徴にあった内容を折りこ み、地元の良さを作品にした。 | 一般 1,000 高校生以下 500 (当日 500高) | 118 | — |
| 8/8(土) 菊陽町図書館 ホール | 清和文楽人形芝 居菊陽公演 | 始めに人形解説と人形操作体験が実施さ れ、観客が気軽に本公演に導入できる雰 囲気が形成された。人形芝居は「傾城阿 波の鳴門～巡礼歌の段～」前半と後半を 上演した。また公演前には、太夫による 文楽や人形、三味線の解説と人形操作の ワークショップを実施した。 | おとな 1,000 高校生以下 500 (当日 200高) | 250 | 24 |
| 10/25(日) 水俣市文化会 館 | 津軽三味線・民 謡「あべや」 水俣市公演 | 津軽三味線と民謡、尺八のアンサンブル による公演。古典曲や「あべや」オリジ ナル曲のほか、合いの手の入れ方などの レクチャーを盛り込むことで会場が一体 となり、大いに盛り上がった。また、地 元の民謡団体「みすず会」との共演で地 域住民との交流もおこなった。 | 1,000 | 321 | — |
| 11/29(日) つなぎ文化セ ンター | そがみまこ&DOYO 組 クリスマスコ ンサートinつな ぎ | 童謡歌手のそがみまこと子どもたちのユ ニット・DOYO組によるコンサート。プロ グラムは童謡、唱歌、クリスマスソング などで構成。歌いながら客席をまわったり、 観客と一緒に歌うなどして、満席の 会場は大いに盛り上がった。 | 高校生以上 500 | 299 | — |
| 12/20(日) 菊池市文化会 館 | トリニティ 菊池 市公演 | フラメンコと箏とピアノによるステー ジ。予定していたゲスト出演者が急逝 し、開催が危ぶまれたが、別の出演者を 迎え、無事に公演が行われた。解説を交 えながら前半は箏とピアノ、後半はフラ メンコを中心とした構成で、「みずのう た」では菊池市民吹奏楽団と共演した。 | 2,000 (当日 500高) | 226 | — |
| 12/23(水・祝) 御船町カル チャーセン ター | そがみまこ&DOYO 組クリスマスコ ンサートinみふ ね | 童謡歌手のそがみまこと子どもたちのユ ニット・DOYO組によるコンサートで、童 謡や唱歌、クリスマスソングなど全20曲 を披露。サプライズゲストに御船町のゆ るキャラ「ふねまるくん」を招き、子ど もたちと一緒にダンスを踊るなどして、 会場は大いに盛り上がった。 | 500 (当日 200高) | 286 | — |

| 期 日 会 場 | 事業名 | 概 要 | 入 場 料 (円) | 入 場 者 (人) | 参 加 者 (人) |
|---|--|---|-----------------------------|--------------------|--------------------|
| H28. 3/27(日) 天草市牛深総 合センター | 三遊亭好楽落語 会 | 落語家 三遊亭好楽と弟子で熊本県益城町 出身の三遊亭好吉、弟弟子の三遊亭鯛好 による高座を実施。 好吉は「味噌豆」、「つる」を、鯛好は 「ちりとてちん」、好楽は「親子酒」を 披露した。好楽は人気テレビ番組「笑 点」お馴染みの顔だけに入場者も多く、 会場は終始大きな笑いに包まれていた。 | 一般 1,000 高校生以下 500 | 467 | — |
| 9/3(木) ウイングまっ ぱせ | 公立文化ホール 支援事業 「熊公文協自主 事業研修会支援 事業」 | 講師に北九州芸術劇場ローカルディレク ター・泊篤志氏と同舞台事業課・坂田雄 平氏を迎え事例紹介を行ったあと、参加 者は「骨太な劇場体験企画を考える」を テーマに、研修会を実施した。 その他、劇場文化事業で客席案内等の研 修や、劇場備品等の貸し出しによる県内 公立ホール支援を行った。 | — | — | 24 |
| 11/22(日) 11/23(月・ 祝) 11/24(火) 宮城県東松島 市 | 被災地支援交流 事業 | 平成25年度から実施している東松島市と の交流事業は、3年目で4回実施。地元か ら落語などの演芸を聞きたいという要望 があり、今回は熊本県出身の若手落語 家・三遊亭好吉を派遣した。若手落語家 だったこともあり、高齢者の観客が多い 現地では集客も伸び、お年寄りにも喜ば れた。 | — | — | 334 |
| 熊本の文化魅力発信事業 | | | | | |
| 7/20(月・祝) 新宿歴史博物 館 | 清和文楽新宿公 演 | 7月から8月にかけて新宿歴史博物館にお いて開催される「熊本と新宿をつなぐ作 家 漱石・八雲」のオープニングイベン トとして取り組んだ。 会場が狭く、通常の道具類が使えないた め、この会場のために新たに装置をつく り「ゆきおんな」を上演。来場者にアン ケートからも清和文楽に対する高い評価 が多く聞かれた。 | 無料 (要ハガキ 申込) | 166 | — |
| H28. 2/6(土) 八千代座 | 清和文楽八千代 座公演 | 初めに清和文楽の歴史と人形解説を実 施。初めて観る観客の理解度も深まった。 公演は「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の 段」を上演した。 終演後に行った八千代座前広場でのふれ あいタイムでは、人形との記念撮影を実 施。県外からの観光客も多く、たくさん の人で賑わった。 | 無料 | 500 | — |
| H28. 2/19(金) 2/20(土) 演劇ホール | 舞台技術の基礎 講座 | 舞台公演を支える技術者の減少が課題と なっているなか、将来の技術者養成につ なげようと、熊本演劇人協議会や舞台技 術関係者の協力を得て、2日間に渡る講座 を実施。1日目は座学で舞台制作の流れや 役割をレクチャーし、2日目は実際に舞台 の仕込みや上演、撤収を実施すること で、舞台技術の基礎を実践的に学んだ。 | 無料 | — | 40 |

| 期 日 会 場 | 事業名 | 概 要 | 入 場 料 (円) | 入 場 者 (人) | 参 加 者 (人) |
|--------------------------|------------------|---|------------------------|------------------------|------------------------|
| H28. 3/12(土) 演劇ホール | 姜尚中館長就任 記念講演会 | 第1部は姜館長講演会、第2部は熊本市現代美術館の桜井館長と映画監督の行定勲氏をゲストに迎え対談を行った。入場者はハガキでの事前申し込みだったが、それでも応募が多く、抽選を実施、新館長就任への期待の高さが伺えた。 | 無料 (要ハガキ 申込) | 918 | — |
| 創造拠点事業《広げる》 計 | | | | 3,861 | 422 |

3) 《伝える》

| 期 日 会 場 | 事業名 | 概 要 | 入 場 料 (円) | 入 場 者 (人) | 参 加 者 (人) |
|-----------------------------------|---------------------------|--|------------------------|------------------------|------------------------|
| 7/20(月) 7/21(火) 大会議室、和 室 | 邦楽ワーク ショップ | 「日本の伝統を伝える」をコンセプトに、普段触れる機会の少ない邦楽器(笙、箏、篠笛、能管、鼓)のワークショップとミニライブを実施。小中学生をはじめ、未就学児を連れた親子連れや邦楽に興味のある年配の方など、多くの人が参加した。前日の20日には、県立劇場が「熊本市小学校音楽教育研究会邦楽特別講習会」に協力し、篠笛の研修を行った。 | 無料 | — | 563 |
| 7/30(木) ~8/1(土) 和室 | 夏休み能楽体験 教室 | 喜多流能楽師の狩野琇鵬、狩野一らを講師に迎え能楽体験を3日間通して実施。1日目は能楽についての解説、「高砂」の謡、基本的な型(シカケ、ヒラキ)の体験、2日目は前日の復習と型(シカケ、ヒラキ、サン)、太鼓、唱歌を体験、3日目は復習と能面体験を行った。また、講師による「船弁慶」の舞(一部)の披露も行われた。 | 親子 3,000 1名1,500 | — | 58 |
| 10/7(水) 大会議室 | 能楽講座 ロボットは能を 舞えるのか? | 喜多流シテ方能楽師の塩津圭介氏と、東京大学院教授の中村仁彦氏を講師に迎え、「モーションキャプチャーで身体をカガクする」を副題に講座を実施。「能楽」と「ロボット」をキーワードに、能楽の基礎知識や今回の実験についての解説を行った。 | 無料 | — | 90 |
| 創造拠点事業《伝える》 計 | | | | 0 | 711 |

②普及拠点事業

1) 《楽しむ》

| 期 日 会 場 | 事業名 | 概 要 | 入 場 料 (円) | 入 場 者 (人) | 参 加 者 (人) |
|--|--|--|------------------------------------|--------------------|--------------------|
| 5/23(土) コンサート ホール | 五嶋龍 ヴァイオリン・リサイタル2015 | 熊本朝日放送との共催事業。五嶋龍3年ぶりの日本ツアー、熊本初公演。ヴァイオリン・ソナタの最高傑作とも言われるベートーヴェン作曲「クロイツェル」と、フランク作曲「ヴァイオリン・ソナタ」ほかを演奏。ほぼ満席となった観客を魅了した。 | [指定] S6,000 A5,000 B4,000 | 1,577 | — |
| 5/26(火) コンサート ホール | シュトゥットガルト室内合唱団 | 世界的に高い評価を得ているシュトゥットガルト合唱団を3県（熊本・富山・神奈川）の公共ホールが連携して招聘し、ワークショップおよび公演を行うことで、開催ホール間ならびに各県合唱連盟間のネットワーク強化を図った。熊本ではあまり例のないプロフェッショナルの合唱団の公演で、ミサ曲やメンデルスゾーンの歌曲などを全曲ア・カペラで披露した。また、前日には同合唱団の指揮者、フリーダー・ベルニウス氏による合唱ワークショップを実施した。 | [指定] 4,000 [自由] 3,000 | 620 | 140 |
| 9/26(土) コンサート ホール | 辻井伸行with井上道義&オーケストラ・アンサンブル金沢 《悲しみのモーツァルト》 | 人気ピアニスト・辻井伸行と、井上道義が指揮するオーケストラ・アンサンブル金沢との共演。2年ぶり、3回目の来熊となった辻井伸行だが、今回もチケットはWEB先行、電話先行予約を経て、一般発売では即日完売となり、根強い人気が見えた。 | [指定] S6,000 A4,000 B3,000 | 1,742 | — |
| H28. 1/29(金) ～1/31(日) 演劇ホール特 設ステージ | 親指こぞう ブクティエーノ (5回公演) | イタリアで注目された朗読劇を日本版につくりかえ、ともさと衣の一人朗読劇として11年前から全国で公演しており、今回熊本での5公演はすべてチケット完売。演劇ホールの舞台上に大きな木の箱でつくられた特設劇場を設け、50台のベッドを並べて観客は横になって聴いた。多くの家族連れが鑑賞し、今までにない新鮮な体験をしたとたいへん好評だった。 | [自由] 3,000 | 272 | — |
| H28. 3/6(日) コンサート ホール | クラシックの小箱Vol.10 第10回記念コンサート | 第10回記念の今回は、過去の出演者5組によるガラ・コンサートとして実施。春をテーマにしたプログラムは案の段階では同じ曲がリストアップされていたが、最終的にはバランスの良い構成となり、観客から好評だった。県出身の演奏家の音楽性の高さも評価され、今後の継続を望む声も多く聞かれた。 | [自由] 1,000 | 889 | — |

| 期 日 会 場 | 事業名 | 概 要 | 入 場 料 (円) | 入 場 者 (人) | 参 加 者 (人) |
|----------------------------|------------------------------|--|---|--------------------|--------------------|
| 民間共催事業 | | | | | |
| 4/26(日) 4/27(月) 大会議室 | 劇団仲間 「空の村号」 (3回公演) | 主催子ども劇場連絡会。震災と原子力発電所の事故を経験した村を舞台に、主人公の小学5年生の男の子とその家族、翻弄される村の人々を描いた演劇公演を上演した。 | [自由] 2,000 | 749 | — |
| 9/13(日) 演劇ホール | 第十九回夏季狂言の会 主催：熊本「万作・萬齋の会」 | 初めに野村萬齋が「狂言のおはなし」で、演目のあらすじや見所の説明を行った後、3曲を上演した。 「寝音曲」では、太郎冠者を演じた野村万作が大杯で酒を飲む場面や謡いのシーンで見事な芸を披露。また、寺の住持と仏門に入ったばかりの男とのずれた受け答えが騒動を起こす「骨皮」では、萬齋が好演し会場の笑いを誘った。 | [指定] S8,640 A6,480 B5,400 [自由] 3,000 | 795 | — |
| 普及拠点事業《楽しむ》 計 | | | | 6,644 | 140 |

2) 《出会う》

| 期 日 会 場 | 事業名 | 概 要 | 入場料 (円) | 入場者 (人) | 参加者 (人) |
|---|-------------------------|---|--|------------|------------|
| 演奏家派遣アウトリーチ事業 | | | | | |
| 7/7(火) ～7/10(金) 御船町内小学 校6校 | 御船町アウト リーチ | 平成26・27年度登録アーティストによるア ウトリーチを実施。ヴァイオリンの緒方 愛子、ピアノの山本亜矢子、サクソフォ ンの西口新一郎が、楽器の紹介や仕組み の説明、楽器体験などを挟みながら演奏 した。音楽を通して情景を想像したり、 アーティストの手の動きの速さに圧倒さ れたり、間近で見聴きする演奏に子ども たちは目を輝かせていた。 | — | — | 198 |
| 9/10(木) ～9/17(木) 津奈木町内小 中学校3校 | 津奈木町アウト リーチ | 平成26・27年度登録アーティストによる アウトリーチを実施。ピアノの山本亜矢 子は中学生に対するアクティビティ。ア クションモデルで音が鳴る仕組みを説明 したり、オルゴールを用いて響板の効果 を実感してもらうなどした。後半は、 バッハやショパン、ドビュッシーの曲を 通して、バロック音楽、ロマン派、印象 派などを説明した。 ヴァイオリンの緒方愛子は演奏しながら 児童の周りを歩いたり、一緒に演奏する 体験をするコーナーを設け、演奏者と児 童の距離を近づける工夫をしていた。 サクソフォンの西口新一郎はクイズを通 して楽器の仕組みを説明したほか、楽器 を模したモデルを用いての楽器体験を実 施した。 | — | — | 164 |
| 10/15(木) ～11/10(火) 12/23(水・ 祝) 菊陽町内小学 校5校 菊陽町図書館 ホール | 菊陽町アウト リーチ &コンサート | 平成26・27年度登録アーティスト（緒方愛 子、西口新一郎、山本亜矢子）によるア ウトリーチを実施。菊陽町内全小学校計 14コマでアウトリーチを行った。 図書館ホールでのコンサートでは、菊陽 西小学校音楽部との共演ほか、Trio Colore3人の演奏やそれぞれのソロ演奏を 披露。メインプログラムでは、図書館を 併設したホールの特性を活かし、サン＝ サーンスの組曲「動物の謝肉祭」を図書 館司書の絵本の朗読に合わせて演奏し た。 | [自由] おとな 800 高校生以下 400 (当日 200高) | 280 | 483 |
| H28. 2/22(月) ～2/29(月) 3/13(日) 益城町内小学 校5校 益城町文化会 館 | 益城町アウト リーチ &コンサート | 平成26・27年度登録アーティスト（緒方愛 子、西口新一郎、山本亜矢子）によるア ウトリーチを実施。益城町内全小学校計 11コマでアウトリーチを行った。また、 今年度のアウトリーチ事業を締めくく る、登録アーティスト3人によるコンサ ートは、ヴァイオリンとサクソフォン、ピ アノという珍しい組み合わせということ で、意欲的な編曲や構成を試みていた一 方、バランスの取り方などに苦慮した様 子も見て取れた。 | [自由] 一般800 高校生以下 300 (当日 200高) | 118 | 374 |

| 期 日 会 場 | 事業名 | 概 要 | 入 場 料 (円) | 入 場 者 (人) | 参 加 者 (人) |
|--------------------------|--|---|--------------------|--------------------|--------------------|
| 10/22(木) コンサート ホール | 《芸術家派遣 コーディネート 事業》 附中文化の日 「カルテット・ スピリタス」芸 術鑑賞会 | サクソス四重奏、カルテット・スピリタスによる演奏会。「カルメン幻想曲」や「ラブソディー・イン・ブルー」などの演奏のほか、楽器のつくりや音色の特徴などを説明したり、演奏する上で各パートがどんな役割を果たしているのか解説した。また、オリジナル曲のオペラ「MOMOTARO」では演奏に合わせてスクリーンに紙芝居を投影、サクソフォンの魅力が十分伝わる内容だった。 | — | 510 | — |
| H28. 2/7(日) 藤崎台童園 | 《ぴっころシート事業》 児童養護施設 藤 崎台童園 アウト リーチ | 劇場登録アーティストの西口新一郎（サクソフォン）によるアウトリーチ。楽曲説明を交えた演奏をしたり、子どもたちに本物の楽器や模型を使って音を出す体験をしてもらったりした。未就学児から高校生までと幅広い年齢層だったが、それぞれに興味を持って聴いていたようで、子どもたちからは「こんなに間近で演奏を聴くことは初めてで、とても楽しかった」などの感想が寄せられた。 | — | — | 65 |
| 普及拠点事業《出会う》 計 | | | | 908 | 1,284 |

文化活動支援事業一覧

| 期日 | 会場 | 公演名 | 講演概要 | 入場者 (人) |
|--------------|----------|--|---|------------|
| 8/11(火) | 演劇ホール | 創立30周年記念公演 第23回田中バレエコ ンサート | 田中バレエ教室30周年記念となる第23回の公 演。第一部はバレエ・コンサート、第二部では 古典バレエ「ドン・キホーテ」全三幕を上演。 現役の生徒と田中バレエ卒業生の工桃子や国内 外で活躍する陳建国、三木雄馬らゲストが出演 し、小さなバレリーナ達の初々しい演舞と表現 力と情熱溢れるゲストらの優美な演舞に観客は 沸いた。 | 828 |
| 5/5 (火・祝) | コンサートホール | 熊本ウインドオーケ ストラ第28回定期演 奏会 | 第1部はW. ウォルトン作曲「スピットファイ ア」やR. ワーグナー作曲「エルザの大聖堂へ の行列」など往年の吹奏楽の名曲の演奏。 第2部はゲストに鈴木孝佳による2015年度全国 吹奏楽コンクール課題曲クリニックが行われ た。 第3部では鈴木孝佳がN. キンボール作曲「ギレ アド」、J. ヴァン＝デル＝ロースト作曲「オ ステイナーティ」を指揮。聴衆は鈴木孝佳と熊 本ウインドが紡ぐ珠玉のサウンドに惹きこま れ、大いに沸いた。 | 1,242 |
| 6/14(日) | コンサートホール | Ensemble Labo. Kumamoto 第10回定期演奏会 | 第10回となる定期演奏会。今回は、鈴木優人を 指揮・チェンバロに、フラウト・トラヴェルソ 独奏に鈴木洋子の夫妻を招き、交響曲第6番 「朝」やフルート協奏曲第2番、チャイコフス キー最後の交響曲「悲愴」の全3曲を演奏し、 表情豊かな珠玉の響きに聴衆は酔いしれた。 | 725 |
| 9/6(日) | コンサートホール | ザ・シンフォニエツ タ 第28回演奏会 | 地元のアマチュアオーケストラによる演奏会。 指揮に萩原勇一、ヴァイオリン独奏に鈴木理恵 子を迎え、ハイドンとベートーヴェンという古 典派の楽曲に取り組んだ。 前回の演奏会から1年以上かけて練習してい るとのことで、親密なアンサンブルが印象的だ った。 | 638 |
| 10/25(日) | コンサートホール | 「マンドリンの祭 典」熊本マンドリン 協会創立60周年記念 第47回定期演奏会 | 熊本マンドリン協会創立60周年記念として、7 年振りに「マンドリンの祭典」を実施。ホワイ エでは「60年の歩み展」が催された。 第1部では熊本マンドリン協会ほか2団体による 単独演奏。第2部のメインステージは、県内外 からマンドリンやギター等の団体・奏者が集結 し「アヴェマリア」、「オーソレミオ」などマ ンドリンの故郷・イタリアに因んだ馴染みのある 曲を披露した。また、ソプラノの高見久美 子、テノールの浅田昌彦夫妻をソリストに迎え 合同演奏も行った。 | 821 |
| 11/15(日) | コンサートホール | 熊本県おかあさん コーラス連盟創立30 周年記念 第30回 女声合唱フェ スティバル | 熊本県おかあさんコーラス連盟創立30周年記念 となる第30回女声合唱フェスティバル。加盟27 団体各々の演奏に加え、招待演奏に、大分市よ り平成27年度全日本おかあさんコーラス全国大 会ひまわり賞受賞団体の「エリカフラウエン コール」を迎えた。クロージングでは熊本県合 唱連盟顧問の岩津整明による講評と、「大地讃 頌」を全員合唱し、コンサートホールは美しい 歌声で満たされた。 | 1,352 |
| | | | 計 | 5,606 |